

このコーナーでは、毎月、体験活動など広い意味での学びができる施設や団体を紹介していきます。

DATA
主催：財団法人 日本テニス協会 マナーキッズテニスプロジェクト
開催地：全国で開催
対象：幼稚園年中～小学6年生
参加費：ホームページ参照
※一般参加の「デモ教室」の場合は、500～1,000円程度
問い合わせ：財団法人 日本テニス協会 マナーキッズテニスプロジェクト窓口
03-3481-2321
<http://www.jta-tennis.or.jp/kidstennis/>
※開催日、各定員、各所要時間など詳しくはホームページを参照ください。



マナーキッズ®テニス教室

(取材・文・写真=堤谷孝人)

テニスのなかでマナーを学ぶ

お子さまは、元氣よくあいさつができますか？ 最近ほとくに若者のマナー意識の低下が指摘されていますが、「マナーを身につけるには、子どものときからのほうがよい」というのは、全国で子ども向けのスポーツイベント「マナーキッズテニス教室」を展開する、日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクトディレクターの田中日出男さん。

この教室は、テニス指導のなかでマナーを教えるというもの。平成十七年から本格的にスタートし、過去三年間で合計二八〇回以上を開催、約二万人の子どもの参加が実現しています。スポーツとしてのテニスに親しむことはもちろん、年々進む子どもたちの体力・運動能力の低下に歯止めをかけること、運動をおして知性を高くもつこともその目的の一つです。

「マナーはあいさつから始まりますが、これまであいさつする習慣のなかった子どもに突然『あいさつをしよう』と言っても、なかなかうまくは取り組めません」と田中さん。しかし、マナーのスポーツともいわれるテニスでは、手合わせを願う際に毎回「お願いします」「ア

りがどうございました」と一礼とともにあいさつをします。こういった必然性を用意することで、子どもはあいさつに慣れ親しんでいき、マナーやフェアプレイの精神を学ぶことにつながると思います。

また、教室の最後に行われる「閉会式」では、マナーやフェアプレイをテーマにした短い読み物が渡され、家に帰ってからよく読み、その感想文を日が変わらないうちに書いて後日テニス協会まで送る、という課題が出されます。教室では楽しみながら体をマナーを学び、家ででも一度マナーについて頭で考えてもらう、ということなのです。

「あいさつをしたらとても気持ちよかったです」と子どもたちが言えば、保護者も、教室に参加したことで恥ずかしくならず大きな声であいさつができるようになったと子どもの変化に驚くそうです。

「最近では、小学校の体育や道徳の授業によれば開催することも増えてきています。マナーの習慣は、個人で一度体験しても、生活のなかにその習慣が浸透しなかつたら、すぐに失われてしまうもの。家庭では、親が率先して、そういう習慣を生活のなかで定着させる努力が必要なのだと思います」(田中さん)

あいさつをすると自分も相手も気持ちがいい！

教室は「開会式」で始まります。まずは、ディレクターの田中さんと対面して、子ども一人ひとりが自己紹介。その後、日本古来の礼儀作法を教える小笠原流礼法の鈴木万亀子総師範が、足をきちんとそろえて立つ、頭のでっぺんから引っぱられていくような感じで首をまっすぐに立てる、といった正しい姿勢での立ち方や、「自分が正しいいやなことは人にしない」「一人の話は正しい姿勢で、相手の顔を見ながら聞く」など、基本的なマナーについて話をします。

テニス指導が始まると、ワンブレイごとに講師と子どもが対面して、「よろしくお願ひします」「終わっただあとありがとうございます」

とあいさつをし、気持ちのよい汗を流していきます。あいさつなしで立ち去ろうとすると、すぐに呼び止めてしっかりと取り組ませるのがこの教室での大切なところ。

一方、保護者は別室で鈴木総師範による礼儀作法の講義を聞きながら、日ごるの家庭環境について振り返ります。こうして、親子ともに、

あいさつやマナーについての理解を深めていくのです。

教室も終盤になると、子どもたちの生き生きとした様子が一目でわかるようになります。気持ちのいいマナーを知ることが子どもを元気にするのでしよう。親子ともにマナーを通じて少し成長できた経験を活かすように、これからの家庭環境がどのように変わるのか、とても楽しみです。



▼ブレイのあとは笑顔で握手をするのがルール。



▼保護者は鈴木総師範(写真下右)から「家庭内のしつけ」をテーマにした講義を受けます。



今月の「アンテナ」keyword 「マナーキッズ」

親から「しつけ」としていろいろ言われることには抵抗のある子どもでも、スポーツのなかでは意外としっかり上下関係やマナーを守っているものではないでしょうか。こういった機会をおととして、マナーを守ることの気持ちよさ、すばらしさに子ども自ら気づいてもらいたいですね。

●NPO法人マナーキッズプロジェクト

「マナーキッズ」の輪を広めることを目的に、昨年6月に設立されたNPO法人(理事長田中日出男氏)で、マナーキッズテニス教室を媒介とした小学校体育と道徳の融合授業開催の支援事業(日本テニス協会と連携)、サッカー、ラグビー、ミニバスケット、柔道などでの礼法指導(今までに約6,000人が参加)、町ぐるみ・地域ぐるみの「あいさつ運動」の支援事業、文化活動・社会活動でのマナーキッズ教室の開催のほか、地域や保護者などを対象とした各種研修・教育・普及事業などを継続的に展開しています。



NPO法人マナーキッズプロジェクト
<http://www.mannerkids.or.jp>

▼開校式では、修了証が授与されます。「フェアプレイ」を題材とした課題の感想文の送付率は7割を超えます。どの子ども、しっかりと読んで書いてくるそう。

